

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076000118		
法人名	嘉穂ホームケアサービス 有限会社		
事業所名	グループホーム ほたるの里 (1ユニット・2ユニット)		
所在地	〒820-0313 福岡県嘉麻市桑野2639番地1	0948-57-3111	
自己評価作成日	平成27年03月04日	評価結果確定日	平成27年03月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

遠賀川の源流である山々に囲まれた自然豊かな田園地帯に位置した事業所は、四季折々の風景を感じる事ができ、施設横の桜並木、名称でもあるぼたるを觀賞する事ができる環境にあります。職員は、家庭的でゆったりとしたサービスを心がけており、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年03月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた清流に蛍が乱舞し、桜の美しい並木道沿いに、開設11年目を迎える2ユニットのグループホーム「ほたるの里」がある。代表が生まれ育った地元で開設したホームは、地域との関わりが深く、自治会や消防団、ボランティア等多くの協力者で、ホームのイベントや地域の行事に相互参加し、地域との信頼関係に結びついている。職員は、利用者一人ひとりの身体能力を考慮し、利用者が、「出来ること・出来そうなこと・出来ないこと」等を把握し、日々の介護サービスの提供に取組み、リハビリを兼ねて、土筆やわらび等を利用者と職員が採りに出かけ、新鮮な旬の食材を使った料理を、調理上手な職員が調理し、利用者と職員が同じテーブルで談笑する様子は楽しそうで、利用者の健康の源になっているグループホーム「ほたるの里」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で家庭的な生活を送れるサービスが提供出来る様に理念に掲げ、毎朝、申し送り時に理念を唱和し、理念の持つ意義について話し合いながら、日常のケアに反映出来る様に努力している。	ホームが目指す介護サービスのあり方を明示した理念を掲げ、毎朝の申し送り時に職員が唱和し、全員で共有して、利用者が居心地の良い環境の中で、その人らしくゆったりとした日々を送れるよう支援している。また、職員のペースではなく、利用者のペースでゆったりと支援する事を心掛けている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	残念な事に、近くの小学校が閉校となり、児童の訪問が無くなったが、ボランティアの受け入れ等、交流は保っている。	代表が生まれ育った地元で開設したホームであり、開設時から地域の方々の応援が得られている。自治会や消防団との関わりも深く、地域の缶拾いに参加したり、散歩時に挨拶を交わしたり、日常的に交流している。近くの小学校が閉鎖したが、各種ボランティアの受け入れは継続して行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談事があった際、相談にのっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて、以前、利用されていたご家族の方に講演を開いていただいたり、他施設の職員や、駐在所の方等に参加していただきサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、家族を中心に、民生委員、行政職員、他事業所職員、駐在所の方、元家族等に参加してもらい、外部の目を通した意見や質問、要望等を受け、充実した会議を目指している。ホームからは、運営や取り組み、課題等を説明し、事業の内容や認知症についての理解を得ている。	会議の中で、司会者の他に書記を立てる等して、参加委員の発言等、会議の中身を詳細に記録し、誰が見ても、会議の内容が分かるように議事録を整備していく事を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より連絡を取り合い、相談したり助言を頂いたり協力関係が築けるように取り組んでいる。	行政窓口疑問点や困難事例、事故等について相談、報告をしている。また、空き情報の報告を毎月行い、連携を図っている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの実情を理解してもらい、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように、ミーティング等で話し合い、マニュアルに沿って日常のケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、会議の中で身体拘束にあたる行為についての話し合いを行い、管理者からも説明している。外部研修を受ける機会があれば受講し、職員一人ひとりが理解を深め、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加したり、ミーティング等で話し合い、マニュアルを整備し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修を受講し、研修を受けた職員は、ミーティングにて他職員へ伝達している。必要に応じ活用していきたい。	これまで、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用された利用者はいない。外部の研修を受講して制度について学んだ職員が、勉強会の中で他職員に報告を行なっている。利用者、家族が制度を必要とする時には、関係機関と協力し、活用につなげる事が出来るように取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、改訂時の際は、重要事項項目を解り易いように説明し、安心して入居して頂けるよう努めている。また、解約時には、転居先で適切なケアが受けられるよう、一緒に考慮している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族が意見、要望を出し易い環境づくりに努めている。又、玄関に介護サービス苦情・相談窓口のポスター、ご意見箱を設置している。	家族面会や運営推進会議、運動会等の行事参加の時に、家族とゆっくり話す機会を設けている。また、定期的に電話連絡を行い、家族からの意見や要望を聞き取り、ホーム運営や、利用者の介護計画作成に反映出来るように取り組んでいる。また、ホーム便りに手紙を添えて毎月送付し、利用者の生活状況、健康状態等を報告している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員の意見や提案を聞く機会を設け、ミーティングにて全職員にて話し合い運営に反映させている。	職員会議を両ユニット合同で2ヶ月毎に開催していたが、昨年末からの人員不足のためここ最近では行っていない。毎日の申し送りや休憩時等、日頃から職員が意見や要望、提案等を言える機会は設けている。また、代表も現場に出ているので、常に職員との会話があり、利用者の情報の共有も出来ている。	意見や提案を職員間で検討する機会や勉強会を行う等、日々の介護サービスについての確認や、向上心を持って働けるよう、定期的な職員会議の開催が望まれる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その時々々の状況に合わせて勤務調整を行い、有給等も取りやすい環境・条件を整備し、働きやすい職場づくりに努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。職員に対しては、家庭での環境にも配慮し、希望に添えるように努めている。	職員の休憩時間や希望休、勤務時間に配慮し、管理者は、職員の特技や不得手を把握し、役割分担により、職員一人ひとりが能力を活かして生き生きと働けるよう支援している。また、職員の採用は、介護に対する考え方や意欲を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は、介護技術の向上を目指し、資格の取得を奨励し、勉強会を実施している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権に関する外部研修を受講しており、ミーティングにて内部伝達を行い、人権に対する意識を高めるよう取り組んでいる。	ホームの運営方針に、「安心と尊厳のある生活を支援していく」と明示し、毎日唱和する事で、職員一人ひとりが利用者の人権について、常に意識し、ホームの中で、利用者がその人らしく暮らせるように取り組んでいる。また、外部研修に参加した管理者が、職員に伝達し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会や嘉麻市の勉強会等に参加する機会を設け、受講した職員はミーティングにて内部伝達を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、地区ブロック研修会を通して同業者との情報交換等を行い、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談にはいつでも対応し、入院されている方等は事前に何度か面会をし、その際に本人の要望等をよく聞くようにしており、出来るだけ利用開始時の不安を解消できるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談にはいつでも対応し、その際に家族の要望等をよく聞くようにしており、出来るだけ利用開始時の不安を解消できるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族の話をしっかりと聴き、困っている事や必要とされている事を把握し、他のサービス利用も含めた助言や支援に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事はなるべくしてもらい、歌や裁縫、山菜採り等、利用者から様々な事を学びながら、共に支え合う関係をきずいている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と連絡を取り合い、催し物等の際には、一緒に過ごしていただけるよう働きかけ、本人の為に家族に協力して欲しい事がある場合は、相談できる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や近所の方などが、訪問してもらえやすい環境作りに努めている。又、馴染みの場所へドライブや、家族の方と外出や、外泊を出来るよう支援している。	利用者が長年培ってきた人間関係や地域社会との関わりが、ホームに入居する事で途切れないように、利用者の友人、知人が来訪し易い雰囲気作りを心掛け、何時でも来て頂けるよう取り組んだり、利用者が「 に行きたい」と希望されると、ドライブに出かける等、支援に努めている。また、家族との外出や自宅への外泊等も支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションを一緒に行う事で、利用者同士のコミュニケーションを図るよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、継続的な関わりを必要とされる利用者や家族には、出来る範囲の支援を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望の把握に努め、思いを表現出来ない方には、本人本位の視点に立って支援している。	職員は、日常会話の中から利用者の思いや意向を聴き取り、家族と相談し、実現に向けて取り組んでいる。また、意志の疎通が困難な利用者については、家族に相談し、職員が利用者に寄り添い、話しかけ、利用者の表情から察知して、思いや意向を汲み取る努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関わりのある方から情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りにて利用者一人ひとりの健康状態等の引き継ぎを行い、職員全員が把握出来るよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望は、日々の生活の中から汲み取り、家族の意見は電話連絡時や面会時に聴くようにしている。3ヶ月に一度は計画の見直しを行っているが、利用者の状況に応じて随時現状に即した計画を作成している。	職員は、利用者や家族の意見や要望、苦情等を聞き取り、カンファレンスやモニタリングの中で検討し、利用者が安心して暮らせる介護サービスの提供に取り組んでいる。また、計画通りに実践出来ているかを確認し、利用者の状態変化に合わせて、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは、個別に介護記録に記録しており、申し送りにて、情報を共有しており、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況に合わせて、要望に応じて支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職場体験実習の受け入れを行ったり、又、ボランティアの方等を招き、催し物を行っている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	出来るだけ、本人及び家族の希望に沿ったかかりつけ医を継続している。	契約時に利用者や家族の希望を聴いて、入居前からの馴染みのかかりつけ医の受診を支援している。職員との受診は、個別の外出の機会でもあり、利用者の楽しみとなっている。利用者の健康や生活状況をかかりつけ医に提供し、医療情報を家族と共有している。准看護師が2名勤務しているため、安心して任せられる健康管理体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	准看護師の資格を持っている職員が2名おり、日常の健康管理や医療活用の支援をスムーズに行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、出来るだけ病院に出向き、家族及び医療機関と話し合いを行う等し、早期退院に向けた支援を行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として「出来る事・出来ない事」を十分に検討し、医師や家族とも話し合い協力し合って支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合のホームで出来る支援、出来ない支援について説明し、了承を得ている。利用者の重度化に合わせ、家族と連絡を取りながら段階的に話し合い、主治医を交えて今後の方針を確認し、関係者と共有して、利用者になるべく長く、ぎりぎりまで、安心してホームで暮らせるよう支援している。	入居時に、重度化や終末期に向けたホームの方針の説明は口頭で行っているが、ホームにおける重度化や終末期の方針を示した指針を作成し、書面を交わす事で、方針の明確化に取り組む事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救急救命士の講義を受けている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い夜間想定連絡体制の確認や、避難経路・避難場所などを再確認している。管理者は地元消防団に所属しており、協力体制を築いている。	管理者が地元の消防団に所属し、自主防災訓練を実施し、避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者が安全に避難できる体制を整えている。また、職員の防火意識を高め、火を出さないための点検等を実施し、利用者が安心して暮らせる環境を整えている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で、利用者の尊厳を傷つけないように配慮しており、個人情報の取り扱いについても十分に配慮し、全職員が誓約書を書いている。	勉強会の中で、利用者の尊厳を守るためのケアについて、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務についても、管理者が常に説明し、周知が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりコミュニケーションを大事にし、思いや希望を言っていただけるような信頼関係を築く事に努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、一人ひとりのペースや希望に沿って支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装等が出来るように、職員と買い物に行き、好みの物を選んだいただく様な機会を設けたり、希望があれば理美容室を利用されるよう支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に山菜を採り食事に出したり、出来る範囲で準備や片付け等を手伝っていただく。	調理専門の職員が退職したため、おかずのみ配食サービスを利用し、御飯と汁物はホーム職員が作って提供している。利用者の間に職員が座り、声掛けしながら必要な方の介助を行いながらの食事風景である。利用者が食べ終わった後、職員は食堂で持参した弁当を食べている。また、利用者と一緒に土筆や蓴を採りに出かけ、旬の食材として調理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		<p>栄養摂取や水分確保の支援                      食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの状態に応じて、一日に必要な栄養や水分量が確保できるよう声掛けや工夫をし、摂取量を増やしてもらうよう支援している。</p>	/	
44		<p>口腔内の清潔保持                      口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い、一人で出来ない方は介助にて口腔ケアを行っている。又、必要に応じ、訪問歯科を受けていただいている。</p>	/	
45	19	<p>排泄の自立支援                      排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや誘導するなどし、トイレで排泄できるよう支援している。</p>	<p>職員は、利用者の排泄チェック表を確認し、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングをみて声掛けや早めのトイレ誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。日中は布パンツの方がほとんどで、夜間はリハビリパンツにパットで対応している。オムツ使用の方も、日中はトイレでの排泄を支援している。</p>	
46		<p>便秘の予防と対応                      便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便の記録を記録し、便秘がちな方には牛乳を飲んでもらったり、体を動かしたり、腹部マッサージをしたりして予防に取り組んでいる。</p>	/	
47	20	<p>入浴を楽しむことができる支援                      一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>出来るだけ利用者の希望に応じて、柔軟に入浴支援を行っている。</p>	<p>入浴は2日に1回を基本とし、入浴前にシャワーを出して浴室を温める等、配慮している。利用者が一人ひとりゆっくり湯船に浸かって入浴を楽しめるよう支援している。利用者の体調や、その日の状態に配慮し、足浴や清拭に変更することもあり、無理強いのない入浴の支援に取り組んでいる。</p>	
48		<p>安眠や休息の支援                      一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>休みたい方には、時間に関わらず居室やソファで休息されたり眠れるように支援している。</p>	/	
49		<p>服薬支援                      一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの処方箋をカルテにとじ、通院記録簿を作成し、薬の理解や薬の変更の履歴が分かるよう記録し、確実に申し送るようにしている。</p>	/	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で自分で出来る事はやってもらい、出来る事への張り合いや役割を持ってもらうように支援し、レクリエーションやドライブ等で気分転換を図っている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	利用者の希望に沿って散歩やドライブ等の支援を行っている。	ホームの周りは桜並木が続き、利用者と職員は散歩の途中で山菜採りを楽しみ、夏には蛍の乱舞を眺め、四季それぞれの変化を楽しんでいる。日課の散歩やドライブ、花見、道の駅でおやつを食べる等、利用者の気分転換や生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。また、家族の面会時に一緒に外出する事も多い。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には小額のお金を持ってもらい、外出時等に買い物をするよう支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望にて携帯電話を持ち、自由に電話をされている方もおり、希望があれば電話や手紙の支援をしている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に快適に過ごしていただくため、温度調整、明るさ、換気等に十分に注意し、廊下には、水槽で魚を飼ったり、利用者の作品やイベントの写真を貼るなどし、廊下を歩いていても楽しめるような空間を心掛けている。	窓の外には溪流が流れ、桜並木が続く素晴らしい立地である。2ユニット(定員16人)は長い廊下で繋がっており、創作の得意な職員が中心となって利用者と一緒に作った季節毎の作品が飾られ、利用者は眺めながら歩行訓練に取り組んでいる。談話室には利用者が集い、風船バレーをしたり、歌を歌ったりしながら、和気藹々とした雰囲気の中、笑顔で過ごしている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にソファを置き、独りになれたり、気の合った利用者同士でおやつを食べたりされている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人の使い慣れた物や、好みの物等を持ってきていただけるよう配慮している。	利用者は、馴染みの物(テレビ、机、椅子、鏡、筆筒、家族の写真)や大切な物を、家族の協力で持ち込み、本人が安心できるように配置している。広い居室にトイレを完備し、プライバシーに配慮した造りとなっている。また、窓から見える景色は素晴らしく、利用者がゆったりと過ごせる居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設け、利用者一人ひとりの身体能力に応じて、自室内にポータブルトイレやセンサーマットを敷き、安全に生活ができるよう配慮している。		